

【ア】

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				種別	コメント
1 アイウシ 愛牛 (浦幌町)	地区	アイウシニウシイ *アユシニウシ	ayusni-us-i	センの木・群生する・所	{浦幌町郷土博物館報告も同説を採っている。 ただし「ayusni」は「ay-us-ni (とげ・ついている・木)」で タラノキなども考えられる。}	山田	B	-
2 アイカプ 愛冠 (足寄町)	地区 川 駅	アイカプ	aykap	できない	aykap は、地名の場合は大崖のことで、多くは「矢を放ったが届かなかった」という昔話が残る。近くの利別川岸の大崖が発祥地。 {足寄町史は「原音はアイ・カプ・ピラ。『矢が届かなかった崖』の意。アイヌの人たちは山狩や戦争に出かけるときに岩や崖に矢を射かけて運勢を試す習慣があった」と書いている。正確には「アイカプ・ピラ aykap-pira」の形と思われる。}	山田	A	ただし一般的には aykap だけではアイヌ語として不成立。大崖を意味する語として、いわば名詞化されていたと解釈されたものらしい。
3 アイカプ 愛冠 (厚岸町)	岬	アイカプ	aykap	できない	厚岸湾の東岸は断崖となっている。アイカプは会話語では「不可能、できない」という意味に使われるが、地名の場合は、どこでも物凄い断崖の名である。 {厚岸町史も同説を書き、「アイヌ部族間の闘争の時に矢が達することができないというところからきている。」としている。}	山田	A	同上。 矢を射るのは一般的には猟運を試すときが多いといわれる。
4 アイヌナイ 相沼内 (熊石町)	川	アイヌオマナイ	aynu-oma-nay	アイヌ・いる・沢	アイヌは「人」と読むのか、アイヌと読むのか分からないが、上原氏は「蝦夷の住む沢。」と書いている。それだと和人が相当入り込んで来た後での地名ということになるが、あるいは昔人の少ない時代に、そこは人(アイヌ)がいる沢だという意味だったのかもしれない。	山田	B	-
5 アイノナイ 相内 (北見市)	地区 川 駅	アイヌオナイ	aynu-o-nay	アイヌ・いる・沢	人口が少ない地帯だったので、並んでいる沢の中で人の住んでいる沢という意味で呼ばれたものだったろうか。	永田 山田	B	-
6 アイハツ 愛別 (愛別町)	町 川 駅 山岳 ダム	アイベツ	ay-pet	矢・川	アイヌが矢を流したため。 「水の流れが矢のごとく早い」だとか、「昔十勝アイヌの酋長が矢に当たって転落し、矢を流した川」だとか、種々の伝説が生じている。	永田 駅名	C	-
				イラクサ{?}・川	{hay(イラクサ)のhが落ちたものか?}	駅名	? ?	
7 アカイガリ 赤井川 (森町)	地区 川 駅	フレベツ	hure-pet	赤い・川	やち水か鉱物質の水が流れていたもので、こう呼ばれたのだろう。 {森町史は「鉄分を含む川であったから、その川床が赤みを帯び、これを奇異に感じたアイヌが、このように名付けた。」と書いている。}	山田	B	-

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
8 アカイワ 赤井川 (赤井川村)	村 川	-	-	-	水が特に赤いとも聞かない。古い火山地帯で赤土の所が多いからともいわれる。 {松浦『丁巳日誌』には「シマウシベツ」、「シュマウシベツ」、間宮図には「シマウシベツ」と書かれている。元来は「スマウシベツ suma-us-pet 石・多い・川」ぐらいの名であったものか。}	山田	C	現在名の由来は不明。
9 アカシ 赤石 (神恵内村)	地区	フレスマ	hure-suma	赤岩	-	永田	B	すくなくとも「赤い岩」が由来となったと思われる。
		フレチシ	hure-cis	赤い・石	赤い穴のある岩があった。 レンガ色の岩があったことを意識。 {現在道路工事で消滅したが、赤い立岩があったという}	松浦 山田		
10 アカイ 赤岩 (増毛町)	地区 岬	ケマフレ	kema-hure	赤・脚 {足・赤い}	岩脚赤し。 赤い岩層の多い所であったことを意識。	永田 山田	B	? 他説もあり、特定しがたい。
11 アカピラ 赤平 (赤平市)	市 駅	フレピラ	hure-pira	赤い・岩	hure-pira の半訳地名。(赤いピラ 赤平)	従來說	C	-
		ワッカピラ	wakka-pira	水・崖	元来がアイヌ語地名と思われ、wakka-pira ぐらいの名であったろうか。	山田		-
	山岳	アカピラ	{ ? -pira }	山稜の・崖	現滝川公園の沼の崖が発祥地。	町広報誌 (田中吉人説)		? -
12 アカ 阿寒 (阿寒町)	町 川 山岳 湖沼 温泉	アカム	akam	車の如き事 車輪	雄阿寒岳、雌阿寒岳が車の両輪の如くそびえているため。	松浦 山田	C	-
		ラカンペツ	rakan-pet	ウグイの産卵・川	-	永田		-
		アカン	-	動かない{?}	昔の大地震の時も雄阿寒岳が動かなかったため。 {阿寒町百年史は「山本多助著『アイヌの伝説』や佐藤直太郎氏の説を統合すると『不動の』という意味だろう。」としている。}	佐藤直太郎		? -
13 アクベツ 飽別 (阿寒町)	地区 川	アクベツ	ak-pet	浅い{?}・川 射る・川	ak を(o)hak(浅い)とも読み、また「射る」とも解した音に合わせた想像説。	永田 山田	C	? -
		アクベツ	a-ku-pet	我ら・飲む・川	こうとも読める。他地では、飲料水に使った川をアクナイのように呼んでいた。	山田		-

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				確定	コメント
14 アサヒ朝日 (朝日町)	町	-	-	-	天塩川源流が東から流れてくるので、朝日の上の方の土地という意味で名付けたものか。 {朝日町史は「分村の際に上土別村から見て真東にあって、朝日の一番早く昇る村なので、朝日村とすることで衆議一致した」と書いている。}	山田	A	和名と思われる。
15 アサヒ加旭川 チュウベツ忠別 (旭川市)	市駅 川山岳	チュブペツ *チュッペツ	cup-pet	東川 {日・川}	チュブカ・ペツ{ cupka-pet }に同じ。この川の水源地が東にあって、月日の出るところだったため。明治23年旭川村を置く。 忠別を cup-pet と解し、更にそれを意識して「旭川」という地名を作ったのは、永田自身であつたらしい。	永田 山田	C	? ? 「ciw-pet」、「cuk-pet」ともに妥当性が認められ、特定しがたい。
		チュウペツ	ciw-pet	波・川	忠別川の義は「波立つ川」。それが後の民間語源解によりチュブペツ cup-pet(日・川)となり、更に意識して旭川という地名が生まれた。	知里		
		チュクペツ	cuk-pet	秋・川	忠別川の原形はどうも cuk-pet であつたらしい。チュクペツ cuk-cep(秋の魚 鮭)が秋になると盛んに上る川だったからかもしれない。	山田		
16 アサリ朝里 (小樽市)	地区 川駅 山岳 峠 温泉 ダム	アウシナイ	at-us-nay	^{ニレ} 楡皮多き沢 オヒョウニレ・群生する・沢	アサラ。本名アウシナイ。今訛ってアサリと言えり。 松浦氏の文からすると、at-sar「オヒョウニレ(のある)・湿原」ぐらいに読んだものか？	松浦 山田	C	- -
		イチャニ	icani	鮭の産卵場	イチャニ イチャリ (いさり)漁 (あさる) アサリ	永田		
		マサラ	masar	浜ぞいの草原	あの辺の崖下の狭い浜には、あまり広い草原はなさそうである。	駅名 山田		
17 アサブ麻布 (羅臼町)	地区	オタツニオマブ	o-tatni-oma-p	川尻に・カバの木・ある・もの(川)	町内を流れる精進川の旧名を前略し、更に読み方が変化したもの。 (於尋麻布(おたずねまっぷ) 麻布(まっぷ) (あざぶ))	山田	B	-
18 アシ加芦川 (豊富町)	地区 駅	サラオマペツ *サロマペツ	{ sar-oma-pet }	ヨシ原・にある・川	左のアイヌ語を意識したもの。 {サロベツ川のかたわらに設けた駅の名。サロベツ川の両岸はヨシ原である。}	駅名	A	
19 アシベツ芦別 (芦別市)	市川 駅山岳 湖温泉	ハシュペツ アシペツ	as-pet	^{カン} 灌木の中を流れる川 灌木・川	柴木は has でも as でも呼んだ。 {芦別川は灌木の中を流れているという。}	駅名 山田	B	- 「灌木・川」解の方が自然な形と思われる。 ?
		アシペツ	as-pet	立つ・川	下流で見るとゆったりとした川で、as している姿には見えない。	永田 山田		

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				欄外	コメント
20 アシヨロ 足寄 (足寄町)	町川 駅湖	エソロペツ	{ esoro-pet }	沿うて下る・川	釧路方面から阿寒を越えて、この川に沿って十勝または北見に出たため。	駅名	A	
21 アシリベツ (札幌市)	滝	アシリペツ	asir-pet	新しい・川	現在清田と呼ばれる所の元の名。時々川筋が変わったようで、新しくできた方の川をアシリペツと呼び、地名となったのだろう。	山田	B	-
22 アズミ 安住 (置戸町)	地区	アンチ	anci	ヨクヨク 黒曜石	黒曜石が採れた川の名(オネアンジ・ホソアンジ)から名付けられたのであろう。アンジに安住の字を当て、それを「あずみ」と読ませるようにしたものではなかろうか。 {オネアンジ川の左岸の畑からは、その原石が出てくるといふ。}	山田	C	どちらとも特定しがたい。 ?
		-	-	-	アイヌ語とは無関係で、二宮尊徳を信奉する人たちが、「安住(あんじゅう)の地」としての祈りを込めて定めたもの。	置戸町		
23 アソイワ 阿蘇岩 (当別町)	山岳	アソイワ *アソイワ	as-o-iwa	柴山 柴木・多い・山	同名の山が道内の所々にあり、何か霊山であったらしい。	永田 山田	B	-
24 アツカルウスナイ 厚軽臼内 (月形町)	地区 川	アツカルウシイ *アツカルシ	at-kar-us-i	ニレ 楡皮を取る所 オヒョウニレの皮・を取る・ いつもする・もの(川)	-	永田 山田	B	-
25 アツシナイ 厚志内 (上ノ国町)	川	アツウシナイ *アトウシナイ	at-us-nay	オヒョウニレ・群生する・川	-	山田	B	-
26 アツタ 厚田 (厚田村)	村 川	アツタ	{ at-ta }	あつし皮を剥ぐ ^ハ オヒョウニレの皮・を採る	昔アイヌが山中に行って、オヒョウニレの皮を剥いだため。 {厚田の山にはオヒョウニレの群生地があり、かつて漁家の人は漁具用の縄として、その樹皮を利用していたといふ。}	上原 山田	B	いずれにせよ at に関係した名と考えるのが自然と思われる。 - ? ?
		アツウロウシナイ *アツウオルシナイ	at-wor-us-nay	オヒョウニレの皮 ・を水に浸す・いつもする・川	昔アイヌがオヒョウニレの皮を浸し置いた所だったため。	松浦 山田		
		アラペツ	ara-pet	トカゲ{?}・川	この川筋にトカゲが多かったため。 ara は aram の短縮形。	永田		
27 アツナイ 厚内 (浦幌町)	地区 川 駅	アツナイ	ap-nay	ハリ 鉤 釣針・川	現在は厚内というが、昔はアツナイの音だったようである。どうして釣針川なのかわからない。	秦 松浦 山田	C	-

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
28 アッハッ 厚別 (札幌市)	区 川 駅	ハシウシペツ *ハスシペツ	has-us-pet	雑樹の川 柴木・群生する・川	-	永田 山田	B	- いずれにせよ has に関係した名と思われる。 -
		ハシペツ	has-pet	雑樹・川	ハスシペあるいは略してハシペツと呼ばれた。has の h を落として呼ぶことが多く、アスシペツまたはアシペツとか呼ばれていた。	山田		
29 アツマ 厚真 (厚真町)	町 川 駅	アツマ	at-ma	モモンガ・泳ぐ	昔モモンガが川を泳ぎ渡っていたため。	上原 山田	C	?
		アツオマブ *アトマブ	at-oma-p	オヒョウニレ・ある・所	-	永田		-
		アツマム	{ ar-tomam } at-tomam	向こうの・湿地帯	モモンガ説は地名から生じた伝説にすぎない。オヒョウニレ説もその可能性があるというだけで、オヒョウニレの林があったと断定できない。もう一つ考えられるのは、川ではなく、この辺の湿地帯に名付けられたものだとしたら、こうとも考えられる。	厚真 村史		- 諸説あり特定困難。
30 アツケシ 厚岸 (厚岸町)	町 川 駅 湖 湾	アツケウシイ *アツケウシ	at-ke-us-i	あつし皮を剥ぐ所 オヒョウニレの皮・を剥ぐ・ いつもする・所	市街地から8キロ西にあったアツケシ沼から名付けられた。	上原 山田	B	- at に関連する名と考えるのが自然と思われる。
		アツケシト	at-kes-to	ニレ 楡下の沼 {オヒョウニレ・下の・沼}	昔楡の樹が沢山あり、皮をこの沼に浸したため。	永田		-
		アツケシ	akkesi	カキ 牡蠣 {?}	この地にカキの漁場があるため。 {厚岸町史は「一単語、一固有名詞が地名に転化する例はほとんど見あたらない、この説を採用したのは、厚岸のカキを宣伝するために用いたのではないだろうか。」と書いている。}	J. ハチエラ-		? ?
31 アツサブ 厚沢部 (厚沢部町)	町 川	ハチャム	hacam	紅粉ひわに似た小鳥{?}	沢内にその鳥がたくさんいたため。	上原	C	? -
		ハチャムペツ	hacam-pet	桜鳥川{?}	この鳥がたくさんいたため。	永田		? -
32 アツトコ 厚床 (根室市)	地区 駅	アツトクト	at-tuk-to	オヒョウニレ・伸びている・沼	永田氏は「アツトコト・ペツ ^{ニレ} 楡樹出生する所」と訳した。現代流に書けばこうなる。	山田	B	-
33 アトエカ 跡永賀 (釧路町)	地区	アトウイカ	atuy-ka	高い所から海を見越して眺める 海の・上	-	松浦 山田	C	?
		アトウイオカケ	atuy-okake	海・跡	昔、海であったが、今は砂湾に変わったため。	永田		?

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
34 アトサヌプリ (弟子屈町)	山岳	アトウサヌプリ	atusa-nupuri	裸の・山	草も木もない山の姿を呼んだもの。 {白煙を上げている火山で五合目以上は裸の山である。 弟子屈町史も同説をとっている。}	山田	A	
35 アネチャ 姉茶 (浦河町)	地区	アネサラ	ane-sara	細カヤ{?}	浦川媼は、細いカヤが生えていた所だという。	永田 山田	B	? - - 他の例からみて ane-sar が一般的と思われる。
		アネサラ	ane-sar	細い・ヨシ原	音だけで言えば、こうとも聞こえる。	山田		
36 アネハツ 姉別 (浜中町)	地区 川 駅	アネペツ	ane-pet	細い・川	川幅が狭かったため。 {浜中町史も同説をとっている。}	上原 山田	B	-
37 アネハツ 姉別 (池田町)	川	アネペツ	ane-pet	細い・川	{池田町史も同説。}	山田	B	-
38 アノロ 阿野呂 (栗山町)	地区 川	アラルル	ar-rur	山向こうの・海岸	rur は海水の意味だが、地名では海辺の意にも使われる。こんな内陸に海辺とは変だが、「海の方」ぐらいの意味か。	永田 山田	C	? ?
		*アンルル	an-rur					
		アンオロ *アノロ	an-or	鷺捕りの雪穴あるいは小屋{?} ・の所	あるいは、これぐらいの意味だったかもしれない。	山田		
39 アノロ 安野呂 (厚沢部町)	川	アラルル *アンルル	ar-rur an-rur	山向こうの・海岸	元来は噴火湾側の人が、山を越えた日本海側の土地を指した名であったろう。 {厚沢部町史は「茅部アイヌが山の向こうの海岸ということと呼んでいたものらしい。」と書いている。}	永田 山田	B	-

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考		
		カナ表記	ローマ字表記				確定	コメント	
40 アバシリ 網走 (網走市)	市 川 駅 湖 湾 温泉	アバシリ	apa-siri	漏る所(漏る・地)	洞窟があり、その口から滴が落ちていて雨漏りのようだったため。	上原		?	
		チバシリ	{ ci-pa-sir }	我らが・見付けたる・岩	昔網走湖の南岸に、笠をかぶり立つ人の形をした白い岩があり、アイヌがこれを発見して信仰の対象とした。今は崩れてない。 {松浦氏『戊午日誌』は「網走湖口の幣場であった立岩チバシリがアバシリの名の起源」と書いている。}	永田	C	- ci-pa-sir あるいは cipa-sir 解に妥当性を感じるが、諸説あり不明としておきたい。	
		チバシリ	cipasiri	我ら発見したる土地	-			-	
		チバシリ	cipasiri		岩神がチバシリ、チバシリと歌い舞った。 鳥がチバシリ、チバシリと鳴き飛んでいた。			?	?
		チバシリ	cipa-sir	幣場(のある)・島	もともとは、アイヌが崇拜する沖の神の幣場があった網走川の河口に近い海にある帽子岩についた名。チバが古語であるため、後のアイヌに理解されなくなるに及んで、ci-pa-sir の解釈が生じた。	網走市史			-
41 アピラ 安平 (苫小牧市)	川	アラピラベツ	{ ar-pira-pet }	一面・崖の・川	-	永田	C	-	
		アラピラ	ar-pira	片側・崖	低い丘陵と平地を流れる川で崖川という感じがしない。流れに削られた小崖のことか？	山田		?	
42 アフン 阿分 (増毛町)	地区 駅	アフンイ *アフニ	ahun-i	入り込みたる所 入る・所 = 入口	どこかへの入口だったろうか。また方々の土地にアフンルパラ(ahun-ru-par (あの世へ)入る・路の・口。通称地獄穴)と呼ばれる洞穴がある。あるいはその意だったのかもしれないが。	永田 山田	C	-	
43 アブタ 虻田 (虻田町)	町	アブタベツ	ap-ta-pet	釣針・を作る・川	昔大川であって、釣針を作り魚を釣った。 元々は浜の東側の地名。会所移転に伴い、現在地が呼ばれるようになった。釣針はここだけで作ったわけではないだろうが、とにかく古く秦、上原の時代からずっと釣針説が土地のアイヌの解だったらしい。 {虻田町によると「一般的には『釣り針をつくる』を使用しているが、諸説あり、不明であるというのが正直なところ。』とのことである。}	永田 山田	C	-	
		ハブタウシ	{ hap-ta-usi }	ウバユリの球根・を掘る・いつもする所	樺太アイヌ語ではウバユリの根をハブという。この地のアイヌは樺太と同系と思われるので、こうではなかるうか。	駅名		?	-

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
44 アペシナイ 安平志内 (中川町)	川	アペシナイ	a-pes-nay	我ら・下る・川	源流まで上って山を越えると雨竜川水源で、古くからの通路であつたらしい。 {中川町史は「この川に沿って下り、天塩川に出た川。天塩と上川、雨竜、遠別などを結ぶ交通路であつた。」と書いている。}	山田	A	
45 アベツ (平取町)	川	アベツ	a-pet	座所 (何かが)座る・川	-	永田 山田	B	- at-petの方が自然な形と思われ。 -
		アッベツ	at-pet	オヒョウニレの・川	昔オヒョウニレが多かつた。	松浦 山田		
46 アポイ (様似町)	山岳	アペオイ	ape-o-i	火・ある・所	古く語義が忘れられた地名。他にも色々な言葉を当てられるが自信はない。 {様似町史は「天神に鹿が授かるよう、天を焦がすばかりに火を燃やして祈願した。」という伝説を紹介している。}	山田	C	-
47 アムコタン 歩古丹 (増毛町)	地区	アイピコタン	{ aypi-kotan }	^{アワビ} 鮑所 {アワビ・村}	ここでアワビを捕つたため。アイビは本邦の古語。	松浦	B	- 土地柄、アワビが語源となつたものと思われる。 -
		アイピカラウシ	aypi-kar-usi	鮑を・捕る・所	今でもアワビの名産地だという。	永田 山田		
48 アンコツ 安骨 (豊頃町)	地区	チャシコツ	casi-kot	^{トリデ} 砦の・跡	チャシコツに安骨の漢字を当て、後で音読みとなつたものらしい。 {安骨チャシ(跡)として残っている。}	山田	A	
49 アンタマ 安足間 (愛別町)	川	アンタラオマブ *アンタロマブ	antar-oma-p	淵{?}・ある・もの	-	知里	C	? -
	駅	アラタオロオマブ	ar-taor-oma-p	片側・高岸・ある・もの	-			
	山岳	*アンタオロマブ	an-taor-oma-p					

【イ】

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
1 イカウシ 伊香牛 (当麻町)	地区 駅 山岳	イイカウシイ	i-ika-us-i	越す所	-	永田 知里	A	
		*イイカウシ		それ・を越え・つけている・所				
2 イカタイ 井寒台 (浦河町)	地区	イカララニ	i-kar-rani	迂回して通る坂 それ・をまわる・坂	丘陵地が海に迫っている場所で、古い道はその後を迂回している。 {地元ではイカンライと呼んでいるという。}	永田 山田	B	? 語尾の音のズレが気になる。
3 イクサガリ 軍川 (七飯町)	地区 川	イクサプ	i-kusa-p	渡し守 それ・を越させる・者、所	昔ここに住んでいたイクサプ(渡し守)にちなんだ名であるという。	駅名 山田	B	-
4 クシナ 幾品 以久科 (斜里町)	川 地区	エクシナペツ	e-kusna-pet	そこ・を突き抜けている・川	山の際まで突き抜けている川の意味。	知里 山田	C	- - -
		イクシナペツ	i-kus-na-pet	そこ・を横ぎっている・川	山に沿って流れきて、その山の出止まりでそこを横切っている川。			
5 イクシナペツ 幾春別 (三笠市)	地区 川	イクスンペツ	ikusun-pet	彼方の川 向こう側にある・川	幌向にアイヌが住んでいたとき、名付けたという。 幌向川の方に住んでいたアイヌが、あっちの川と呼んだからの名であろう。	永田 山田	B	-
6 イクタラ 生田原 (生田原町)	町 川 駅	イクタラ	iktara	笹	川筋に笹が多かったため。 {生田原町史も同説をとっている。}	永田	B	-
7 イクチセ 幾千世 (門別町)	地区	ユクチセ	yuk-cise	鹿・家	鹿の多いところだったからと思われる。 {門別町史は、幾千世地区の大沢ユクチセナイの項で「ユク・チセ・ナイ 鹿・家・沢 鹿のたくさん集まる沢」と書いている。}	山田	B	-
8 イクトラ 幾寅 (南富良野町)	地区 川 駅 峠	ユクトウラシペツ	yuk-turasi-pet	鹿が・登る・川	現在の幾寅川ではなく、南から注ぐユクトラシペツ川{現在名はユクトラシベツ川}の上部を採って幾寅としたものだという。	山田	B	-
9 イケダ 池田 (池田町)	町	-	-	-	明治29年この地に開拓農場を作った池田侯爵にちなんだ和名。	山田	A	和名と思われる。

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
10 イザリ 漁 (恵庭市)	川 山岳	イチャニ	icani	その鮭産卵場	icani は ican の所属形。 昔、鮭の好漁場であった。	山田	A	
11 イカ 石狩 (石狩市)	市 川	イシカリ	isikari	^{フサ} 塞がる {?}	川筋が屈曲していて塞がって見えただけ。 ----- 川筋が屈曲していて先が見えないため。	上原 松浦 山田	C	? - ? ?
		イシカラペツ	is-kar-pet	美しく{?}・作る・川	美しく作りたる(川)の意味。太古、国造りの神が親指で大地を画し川を作ったため、名付けられたという。	永田		? -
		イシカラアペツ *イシカラペツ	isikar-a-pet	回流川{?}	川口の辺りの川筋が最も屈曲回流していて、川上が塞がるようだったため。			? -
12 イサキ 石崎 (函館市)	地区	シララエトウ *シラレトウ	sirar-etu	岩・岬	ちょっとした岬形の所で sirar-etu を意識したもの。 {それほどの岩岬ではないという。語源の由来は諸々あって定まらないと思われる。}	永田 山田	C	-
13 イソブナイ 磯分内 (標茶町)	地区 川 駅	イソポウンナイ	isopo-un-nay	ウサギが・いる・沢	道西、道央ではウサギはイセボだが、十勝、釧路等ではイソポと呼んでいたという。	山田	B	-
14 イヤ 磯谷 (南茅部町)	川	イソヤ	iso-ya	磯岩・岸	-	山田	B	-
15 イヤ 磯谷 (寿都町)	地区	イソヤ	iso-ya	磯岩・岸	元来は横澗のあたりを呼んだ地名。 海面は岩礁がいっぱいで iso-ya にふさわしい場所。	山田	A	
16 イタンキ (室蘭市)	海岸 岬	イタンキ	itanki	^{ウン} 椀	地名伝説は「海中の岩を寄り鯨と思い、その漂着を待っていたが、薪を使い果たし、所持するイタンキ(椀)も焼いたのだがついに餓死したため」というが、実際は、海岸が椀のように丸く見えるため、呼ばれたものと思われる。	山田	C	? 他に多数諸説ある。不明としておきたい。
17 イチキ 市来知 (岩見沢市)	川	イチキリウシイ *イチキルシ	i-cikir-us-i	^{ヒズメ} 熊跡多き所 それ(熊)の・足(跡)が・多くある ・所	-	永田 山田	C	-